

(様式2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等	(一)浅川			
事業毎の通番	2	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな) 豊野(三念沢)、上駒沢(駒沢川)、古里(新田川)			
事業目的	浅川は、長野市北部市街地を流下し千曲川に合流する河川で、延長が短く急流河川で河川改修前は著しい天井川であったため、ダムと河川改修を合わせた治水対策を実施し、河川改修は平成27年度に、ダム建設は平成28年度に完了している。浅川本川の河川改修の完了に伴い、支川である三念沢、駒沢川、新田川を浅川本川の河川改修計画に合わせ河道を拡幅し流下能力を向上させ、支川及び流域全体の更なる治水安全度を向上させる。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	河川法				
関連する事業、計画等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系河川整備計画(平成26年1月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系長野圏域河川整備計画(平成29年6月 長野県) 						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> ○ 想定氾濫区域内の人家戸数：1445戸 ○ 想定氾濫区域内の農地面積：70ha ○ 想定氾濫区域内の公共施設：生活道路、鉄道、教育施設、その他施設 						
着手年度	平成30年度	事業期間	19年間				
完成年度(見込み)	平成48年度	費用対効果	36.6				
全体事業内容(主な工種)	(三念沢) 河道拡幅工 L=680m	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	(駒沢川) 河道拡幅工 L=1,600m (新田川) 河道拡幅工 L=1,080m		2,500,000	国庫	1,250,000	その他	1,125,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	災害防除					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の活性化					
評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 想定氾濫区域内の人家戸数：1445戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設：18施設 ● 生活道路(一)三才大豆島中御所線、(一)長野豊野線、(一)村山豊野(停)線、市道上駒沢中央線、市道穂保三才線、市道駒沢新町団地線、市道三才下駒沢線、市道豊野中尾三念沢線、市道豊野沖線、市道豊野田園都市線)、● 鉄道(しなの鉄道)、● 教育施設(長野工業高等専門学校、市立長野高等学校)、● その他施設(古里体育館、上駒沢公園、諏訪神社、真願寺、法林寺) ○ 想定氾濫区域内の農地面積：70ha ○ 要配慮者利用施設の有無： <ul style="list-style-type: none"> ● 重要施設(あったかホーム、こまざわハウス)、● 一般施設(ライフサポートりんどろ、あすなるクラブ、あおざおら日中活動支援センター、小春日和) 			評価	A	
	重要性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過去の浸水履歴：H16.10.20(三念沢) ○ 交通遮断による地域経済への影響：鉄道、県道 ○ 重要水防区域：(三念沢)位置づけあり 			評価	A	
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 費用対効果(B/C)：B/C 36.6 ○ 事業期間：19年間 ○ 工法等の比較検討：なし 			評価	B	
	緊急性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年の自然災害の発生状況：護岸の被災(H25.8.23) ○ 近年の水防回数：なし ○ 現況流下能力：(三念沢)最小12%、(駒沢川)最小16%、(新田川)最小13% ○ 護岸等河川施設の種類の種類：(三念沢、駒沢川)築堤 			評価	A	
	計画熟度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業情報の共有：信濃川水系長野圏域河川整備計画の策定に係る公聴会の開催(H28.12.21) ○ 地域の取り組み：地元からの強い要望があり、県市に対して積極的な要望実施の取り組みがある ○ 地域の合意形成：地元地区と現地調査を実施し、事業目的について合意形成が図られている ○ 住民との協働：住民参加による堤防の草刈りが実施されている 			評価	A	
	部局意見	当該河川の保全対象には、人家、公共施設等があるが、昭和58年をはじめ、度々浸水被害を受けていることから、河川改修を早急に実施する必要がある。		採択状況	○	総合評価	A
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。						

【位置図(浅川)】

事業概要説明図表

【改修以前の浅川】

【浅川流域配分図】

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	浅川は中流部では、JR線路の上を浅川が水路で流れる著しい天井川であった。昭和12年、昭和13年、昭和21年の豪雨では、堤防が決壊するなど大規模な氾濫が発生し家屋浸水や鉄道が不通となる被害が発生している。このため、昭和21年から30年にかけて河川改修事業を実施した。しかし、その後沿川の市街化が急速に進んだことから、上流部に設置するダムによる洪水調節と天井川の解消及び支川の改修を含んだ河川改修を組み合わせた抜本的な治水対策を実施することになった。浅川の河川改修は、昭和52年度から着手し平成27年度に完成、また、浅川ダムは、平成22年度に着手し、平成28年度に完成した。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・浅川流域の治水対策について、「浅川総合治水対策連絡協議会」、「長野市東北部地区水害対策問題懇談会」、「新田川・駒沢川改修期成同盟会」から毎年県へ要望されている。
③事業説明等の経緯	・信濃川水系長野圏域河川整備計画の策定に係る公聴会の開催(H28.12.21)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年6月に信濃川水系河川整備方針が認可(国土交通省北陸地方整備局) ・平成25年5月に浅川総合内水対策計画策定(浅川総合内水対策協議会) ・平成26年1月に信濃川水系河川整備計画が認可(国土交通省北陸地方整備局)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・自然環境に配慮した環境保全型護岸形式の採用
⑥地域活性化への影響と配慮	・本事業により、沿川地域及び浅川流域全体の治水安全度が向上し、商業施設の整備や定住化等、地域の活性化が期待される。
⑦その他	—

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 41' 00" 08
東経:E 138° 14' 28" 85